



校長だより

呉市立阿賀小学校
安宗 誠



「怨」を「怨」で返すのではなく…（「報怨以德」）

たくさんの子供達が交わる学校というところでは、人間関係がいつもいつも平穏であるとはかぎりません。

例えばこんなケース。

AがBにちょっかいを出して、Bが泣いて担任に申し出たのを受け、担任がAの言い分を聞いてみると、「以前にBからいやなことをされて心に引っかかっていたから・・・。」と。

このようにAの言い分も聞いてやらないと、悪かったAの悶々とした気持ちは解消されないかも知れません。Aの言い分もしっかり聞く。それははずせないでしょう。

しかし、ことの本质は、大切な我が子（A）をどんな人間に育てたいかというところ。

このようなケース。我が子（A）がしていることは、自分がされた「怨」を「怨」でもって、報復しているということになります。「怨」を「怨」で返すと、終わりがありません。最悪、いつの間にか、自身の破滅の道につながりかねません。我が子が不幸の道を歩むのを望む親などどこにもいません。

自分のしでかしたことを指摘されたとき、まずはその振る舞いを素直に認め、反省できること。また、自分が他人から受けた「怨」を「怨」で返すのではなく、「徳をもって返すこと」（これを『報怨以德（ほうえんいとく）』と言います。）。これができる人間を目指したいものです。

ごみの学習を通して、自分の生き方を振り返る（4年）



パッカー車で実際にごみ収集の様子を再現していただきながら、ごみ収集のご苦労についてお話を聴かせていただきました。

1人1人が出すごみの量をいかに減らすか？
ごみをきちんと分別して正しく出せるかどうか？
1人1人の思いやりが試される場所ですね。